

立志と忠恕の安心ふっかネット



活用の手引き — 家庭でのルールづくりのポイント —

1 保護者のみなさまへ

私たちの生活に定着したインターネット。

子供たちにとっても、タブレットを使った学習や、オンラインでのコミュニケーションなど、学びの深まりや様々な人との交流の楽しみが広がっています。

しかし、使い方を間違えると、ネット・ゲーム依存になったり、トラブルに巻き込まれたり、時には人を傷つける加害者となってしまうこともあります。

この「立志と忠恕の安心ふっかネット」は、子供たちがインターネットを効果的に活用するとともに、その危険性も理解し、ネットトラブル等に巻き込まれないよう、家族と話し合い、実情に応じたルールづくりを進めるために作成したものです。

<子供たちがインターネットでしていること>



情報検索

SNSでのコミュニケーション

写真撮影・投稿

無料通話

動画の視聴・投稿

音楽視聴

ネットゲーム

ショッピング・オークション

電子書籍

間違えた使い方により…

こんなことが発生しています

■ ゲームやネット利用の時間を自分でコントロールできず、日常生活に影響が出る。

■ ネットでのいじめや、見られたくない画像等の拡散、高額請求などの「ネットトラブル」に巻き込まれる。

■ ネット上で知り合った人に会いに行き、そのまま行方不明になってしまう。



2 ルールづくりのポイント

ポイント ① 家庭で話し合ってルールを決めましょう

ルールは「保護者が決める」あるいは「子供が自分で考えて決める」よりも、「家庭で話し合って決める」方が効果的であるというデータもあります。

子供は、家庭で一緒に考え、お互いに納得したルールであれば守ろうという気になります。また、子供が守る気になる「実現可能なルール」を設定することも大切です。

話し合いの視点

- ☑ **子供の意見に耳を傾け、よく話を聞く**
 > 子供がどんな使い方をしたいと思っているのか など
- ☑ **保護者がどんなことを心配しているのかを伝える**
 > ネット利用に関するトラブルや心身への影響など、保護者が心配していることをきちんと伝える
- ☑ **お互いに納得できるよう、ルールを決める**
 > 「1 立志」「2 忠恕」「3 支え合い」の視点で！
 ※ 「ルールの例」も参考に！
- ☑ **子供が守れる(現実的な)ルールを考える**
- ☑ **具体的なルールを考える**
- ☑ **守れなかったらどうするかを決めておく**



ルールの例

立志

- 新たな気付きや発見をとおして、自分の学びを深めます。
- 興味のあることを調べ、知識を増やします。
- 学校の宿題や、準備が終わってから使います。
- 平日__時以降、休日__時以降は使いません。
- 知らない人とは連絡を取りません。
- SNS等で個人情報が出る投稿をしません。

ルールの例

忠恕

- いつも相手の立場を思いやってネット・SNSを使います。
- 人が嫌な気持ちになるような使い方はしません。
- 自分や相手(周囲)にとって迷惑で危険なため、「ながら利用」はしません。
- 誰に対してもやさしい言葉づかいを心がけ、メッセージは必ず読み直してから送信します。

ルールの例

支え合い

- 困ったことがあったら必ず大人に相談します。
- 毎月家族と使い方について話し合います。
- アプリをインストールするときは、家族に相談します。
- 家族の目が届く場所で利用します。
- 使うときは事前に使用内容を家族に伝えます。
- 約束が守れなかったときは、家族にスマホを預かってもらいます。

ポイント② “見届け” をきちんとしましょう ～ルールを“見える化”しておきましょう～

口約束だけでは、ルールが少しずつ変化したり、都合のよい解釈になりがちです。ルールができたなら「立志と忠恕の安心ふっかネット」の用紙に記入して、いつでも確認できるように“見える化”しておきましょう。そして、きちんと見届けましょう。

“見届け”って具体的にどんなことをすればいいの？



★「つくったルール」を「守られるルール」にするために！

**ルールを守れたことを
しっかりと認め、
ほめましょう！**

ルールを守れなかったときに目がいきがちですが、守れたときの見届けを心がけましょう。

「守って当然！」ではなく、守れたときにはしっかりとほめましょう。ルールを守れなかったときだけ叱られると、子供もルールを守ろうという気をなくしてしまいます。

**子供が興味のあることに
保護者も関心を
もちましょう！**

子供が情報検索している内容や興味のあるアプリに保護者が関心をもつと、コミュニケーションがとりやすくなります。

子供が困ったときにも、相談しやすくなるので、定期的に子供がどのような使い方をしているのか、何が楽しいのか、子供の話に耳を傾けましょう。

**ルールの運用は、
毅然(きぜん)と
行いましょう！**

子供に「ルールをやぶっても大丈夫！」と思われないよう、決めたルールの運用を毅然と行いましょう。

ただし、ルールそのものが厳しすぎたり、易しすぎたりしてうまくいっていない場合は、家庭でもう一度話し合い、ルールを見直してみましょう。

ポイント③ ルールは定期的に見直しましょう

生活の変化などにより、それまでのルールが現状に合わなくなることがあります。ルールは柔軟に変更してもよいものですので、その時々で、子供と話し合い、新しいルールへと見直していきましょう。



3 保護者としてできること

今後、子供たちがスマホやインターネットを使用する機会は、ますます増えていくと考えられます。子供たちがネットを効果的に、そして、安全に安心して使用することができるメディアリテラシーを身に付けるためには、大人の責任として、子供にまかせっきりにはしないことが必要不可欠です。そして「家庭でのルールづくり」は、その責任の1つであるといえます。

ルールづくりは、お互いの意見のすり合わせです。子供の意見をしっかりと聞き、保護者の思いもきちんと伝えましょう。そうすることで、実情に合ったルールを一緒に見つけることができるはずです。ネットをめぐる対立ではなく、ネットをきっかけにコミュニケーションをする意識をもつことが大切です。